

## 九段坂公園の整備の方向性について（九段坂公園整備地元協議会取りまとめ）

### 1 公園整備に向けた基本的な考え方

- ① 九段坂公園と旧消防署跡地、千鳥ヶ淵緑道入口を一体的に整備します。
- ② 靖国通り・北の丸公園から千鳥ヶ淵緑道まで円滑な歩行導線を確保します。
- ③ 歴史や文化、豊かな自然環境をいかした安らぎのある空間を整備します。
- ④ お濠の水と緑、良好な都市景観が楽しめる空間を整備します。
- ⑤ 2020 東京大会までに安全・快適で魅力ある空間を整備するとともに、2020 以降のオリンピックレガシー（遺産）創出も念頭において整備します。

### 2 公園整備の課題と対応の方向性

#### （課題 1）田安門前歩道橋付近における円滑な歩行者導線の確保

- 当面、歩道橋の現存を前提に、靖国通りと九段坂公園を一体的に整備し、歩道橋周辺における段差の解消や歩行空間の拡大を図ります。
- 歩道橋を撤去し、平面で横断できるようにすることが、人優先の「バリアフリー」を実現し、景観の向上にもつながります。そこで、まず、田安門交差点に横断歩道の設置を検討し、交通管理者に要望して、歩道橋、横断歩道の併存運用を目指します。
- 歩道橋が通学路や保育園児の外遊びの経路として使用されていることなどから、歩道橋の利用状況をにらみながら、将来的に歩道橋の撤去を目指します。
- 併せて、通り抜け可能な空間として公園の視認性を向上させるとともに、公園内に円滑な歩行空間を整備し、日本武道館来場者等が歩行導線として使用しやすくします。

#### （課題 2）銅像等の扱いについて

- 大山巖像並びに顕彰碑は傾きが見られ危険であることから、像については園内移設を図り、安全確保とスペースの有効活用を図ります。顕彰碑は取り扱い方法等を検討します。
- 銅像 2 体とその周辺が公園内で大きな面積を占めていることから、銅像周辺の空間を園路等として有効活用が図れるよう整備をします。
- 銅像、常燈明台については、貴重な歴史文化資源として有効活用をはかり、その由緒、由来をわかりやすく発信します。

### **(課題3) 千鳥ヶ淵緑道と九段坂公園をつなぐ消防署跡地の空間について**

- 九段坂公園、消防署跡地、千鳥ヶ淵緑道は、連続した良好な歩行空間として整備します。
- 消防署跡地は、東京を代表する都市景観スポットとなるよう、眺望配慮した広場として整備します。

### **(課題4 公園におけるトイレの在り方について)**

- 公園内の公衆トイレにも「傾き」が見られることから整備に合わせて一旦撤去します。
- 公園と消防署跡地を「連続した空間」として整備するには、常設の大型な規模のトイレの設置には課題があります。また、北の丸公園と千鳥ヶ淵の玄関口という機能を踏まえると、景観面からも課題があります。「傾き」が発生した原因も確認する必要があります。
- しかし、一定のトイレ利用者の存在を踏まえ、必要に応じて、良質な「仮設」トイレが設置できるような環境整備も視野に入れ、さらに検討をしていきます。

### **(課題5 樹木・植栽の整理、整備について)**

- 鬱蒼とした樹木により、公園内に暗い空間が多かったり、眺望を阻害したりしていることから、良質な緑の空間となるように適切に樹木、植栽の整備を行います。
- 一方で、むやみに既存の樹木を伐採するのではなく、樹木の状態を的確に把握し、枝の処理等必要最小限な整理とするとともに、全体としては、消防署跡地も含め、景観として整えられ、訪れる人が親しめる緑の量が増えるよう整備していきます。

### **(その他の留意事項)**

九段坂公園から消防署跡地にかけては、「切り土」や「盛り土」が行われてきた歴史的経緯があること、また、現在、銅像やトイレに「傾き」が見られることから、整備に先立って地盤調査を行い、安全面に配慮した整備に取り組みます。

安全性の観点から、今後の整備に一定の制約、例えば、建物等の設置を控えるなどが生じることとも考慮していきます。